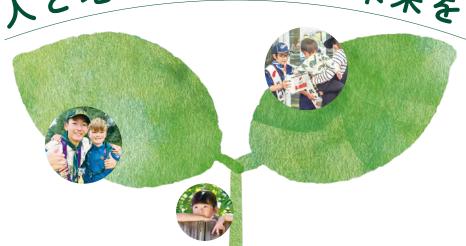
ボーイスカウト年次報告書

ANNUAL REPORT 2023-2024



人と地球によりよい未来を





ANNUAL REPOR 2023-2024

数字で見る ボーイスカウト

2023年から2024年にかけて行われたさまざまな事業を 数字でご紹介いたします。

加盟している国と地域

世界の加盟員数

第25回

世界スカウトジャンボリー (韓国)への 参加人数

3.000_x

日本からの参加者



指導者養成研修への参加人数



富士スカウト章取得



指導者養成研修会

子どもたちと一緒に活動する指導者 は、ボランティアとして活動に関わっ ています。

職業や年齢、経験などはさまざまで すが、指導者として活動するために は、活動内容や安全管理などの研 修を受ける必要があります。

子どもたちにより良い体験を提供す るため、毎年多くの方が指導者養成 の研修会に参加しています。

富士スカウト章

ボーイスカウトの教育的な特徴の1 つとして、「進歩制度」というものが あります。個人の発達や興味関心な どにより、段階的に定められた課題 に挑戦し達成することで上位への進 級を目指します。最高到達点は「富 士スカウト章」と定めており、ここに 到達した子どもたちの一部は首相官 邸や赤坂御所などを表敬訪問します。

世界スカウトジャンボリー

日本スカウトジャンボリー

参加人数 (18NSJ·全国分散開催)





日本アグーナリー 参加人数 (13NA)

県連盟

加盟員 (2024年3月末)

全国の団

新規加盟 (スカウト) (2023年度)

7,000_x

新規加盟(指導者)(2023年度)

2,400

スカウトの日への参加人数

スカウトの日

令和6年能登半島地震への募金

(全国で街頭募金等を行った加盟員への

令和6年 能登半島地震への支援

全国の加盟員が地域社会への奉仕 活動や環境保全活動などを同時期 に行い、地域社会に貢献することを 目的に実施しています。近年はSDGs への取り組みも積極的に行っており、 次世代を担う子どもたちが自らアク ションする貴重な機会となっています。

令和6年1月1日に能登半島地方を震 源として発生した巨大地震(推定マ グニチュード7.6、最大震度7)は、北 陸各県および新潟県に大きな被害を もたらしました。ボーイスカウト石川 県連盟ではいち早く被災地の支援活 動を開始し、日本連盟としても全国 からボランティアの受け入れをはじ め、大学生年代の加盟員を中心に現 地支援を行っています。



スカウト運動が目指すもの

ボーイスカウトは、1907年にイギリスではじまり今では世界176の国と地域、 5,700万人以上が加盟する世界最大級の青少年教育運動です。 日本では全国でおよそ8万人が参加しており、 さまざまな体験活動を通して子どもたちは自らの健康を築き、 社会に貢献できる能力と人生に役立つ技能を得ることを目指しています。

人と地球によりよい未来を

ボーイスカウトは、すべての人にひらかれている歴史のある安心・安全な運動です。 そのようなプラットフォームを生かして、社会に出てから役立つ力と心を育てていきます。 社会に貢献する活動を通じて、人々の役に立ち、未来を担っていく人を育て社会に送り出します。 また、日本のみならず、世界各地で活動する仲間ができます。 野外活動をとおして自然と触れ合い、地球を感じながら多くのことを学ぶ機会があります。 学んだことを生かして、SDGs などの地球の未来を考えたプログラムを展開しています。

スカウト運動の特徴

世界中に広がっているスカウト運動は性別や年齢、宗教 に関わらず取り組まれていますが、共通している運動の特 徴があります。

「ちかい」と「おきて」

ボーイスカウトの教育のなかでは、3つの「ちかい」と8つの「おきて」というものを大切にしています。活動を行ううえで自分への約束ごとといえます。



- ・神(仏)と国とに誠を尽くしおきてを守ります
- いつも他の人々を助けます
- ・からだを強くし 心をすこやかに 徳を養います

イギリスからはじまった世界的な運動であるため、信仰は 大切な要素であり「ちかい」の一番はじめに挙げられてい ます。

おきて

- 1. スカウトは誠実である
- 2. スカウトは友情にあつい
- 3. スカウトは礼儀正しい
- 4. スカウトは親切である
- 5. スカウトは快活である
- 6. スカウトは質素である
- 7. スカウトは勇敢である
- 8. スカウトは感謝の心をもつ

体験を通じた活動であること

ボーイスカウトは「行うこと」によって学びます。子どもた ちの興味や好奇心は成長に必要な栄養。

野外で初めて嗅ぐ匂い、初めて触る感触などワクワクを刺激する体験が待っています。

自発的な活動であること

自分たちがやりたいことを企画・実行することで、困難を 乗り越え達成感を得ます。様々な研修を受けた指導者が、 子どもたちの成長を願ってさまざまな体験の機会をサポー トします。

個性を伸ばすことができる豊富な選択肢

挑戦項目をクリアするともらえる「バッジ」が日本では約120種類あります。「社会生活」等から始まり、学年が上がっていくと「野外炊事」や「ハイキング」など野外活動で役に立つものや「防災」「救急」など社会の役に立つためのものもあります。

異年齢が集うグループで活動すること

年齢に応じて5つの部門を設けています。年上のお兄ちゃんお姉ちゃんと一緒に行動することで"できる"ことが増え、上級生になると年下の子たちに教えてあげることで協調性やリーダーシップ、集団での自分の役割を身につけていきます。











公益財団法人ボーイスカウト日本連盟 理事長

水野正人

この度、本連盟の1年間の活動をご報告いたします。皆様のご支援のおかげで、前年度は、コロナ禍からの回復に伴い、地域活動が活発化し、国際事業も展開することができました。心より感謝申し上げます。

1907年に誕生したスカウト運動は、世界176の国と地域、5,700万人以上が参加するグローバルな活動へと発展しました。日本でも、1922年の創立以来、青少年の健全な育成を目的に、野外活動や地域貢献活動など、多岐にわたる活動を行っています。

スカウト活動は、自然の中で仲間と協力し合いながら、自ら課題を見つけ解決していくことを通じて、自尊心や共生意識、リーダーシップを育みます。また、自然体験は、環境問題への関心を深め、持続可能な社会づくりに貢献する人材育成にもつながっています。

20世紀初頭、イギリスで誕生したスカウト運動は、当時の青少年に関する 課題について一つの解決方法を提供し、支持されました。現代の日本におい ても、社会の変化や複雑化する課題に対し、スカウト運動は、地域社会と 連携しながら、青少年の成長を支援しています。

スカウトのモットーは「そなえよつねに」です。昨今の自然災害の多発を踏まえ、この精神はますます重要となっています。私たちは、青少年が将来に備え、自ら考え行動できる人材に成長できるよう、支援を続けていきます。

今後も、本連盟の活動にご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い 申し上げます。



子どもたちの体験格差への取り組み

ひとり親家庭等応援・ともに進もう助成プログラム

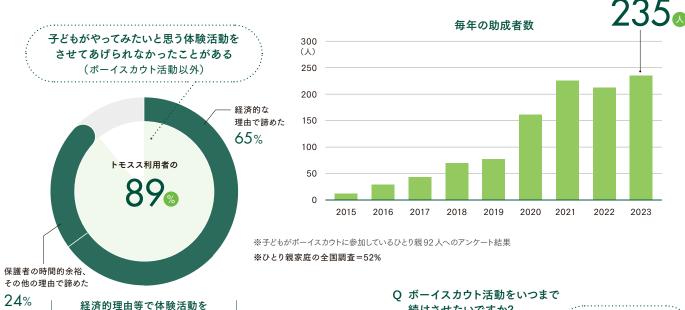


現在日本では、ひとり親家庭の子どものうち2人に1人が相対的貧困の状況に置かれています。この厳しい経済状況のなかで、ひとり親の半数が、子どもの体験活動を諦めたことがあると答えています。

ボーイスカウト日本連盟は、生活に困難を抱えるひとり 親家庭の「体験格差」に目を向け、子どもの体験活動への

参加を促進するため、公募を行い、世帯(保護者)の所得 状況等について審査を経て、ボーイスカウト活動の支援金 を助成しています。

2015年から2024年の10年間で、受給者はのべ1,328人となりました。



ひとり親の皆さんがボーイスカウトでの 活動に抱く期待

させてあげられないひとり親家庭が、

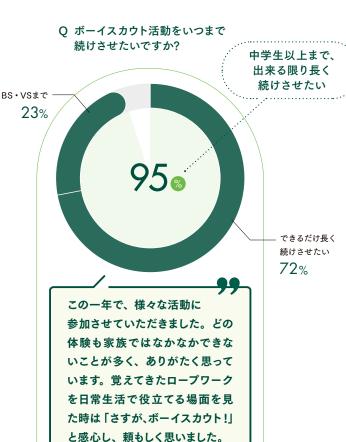
ボーイスカウトを選択している

•••••••

受給者を対象としたアンケート調査の結果、動機No.1は「家庭ではできない活動だから」でした。「毎回私1人ではしてあげれないようなことが経験出来るので娘は楽しんでいます」といった声もお寄せいただいています。

そして実に9割以上の方が、中学生以上まで・出来る限り長くボーイスカウトを続けさせたい、と考えていることが分かりました。

こうした結果を受けて、この助成プログラムを今後より 一層充実させ、ボーイスカウトを通して子ども時代の豊か な体験機会を届けることが大切だと認識しています。



クラウドファンディングに挑戦!

日本国内における体験格差の実態や私たちが行っている助成について、一人でも多くの方に知っていただくために、2022年度・2023年度にはクラウドファンディングに挑戦いたしました。おかげさまで2回でのべ588人の方からご寄付をいただき、また挑戦期間中のオンライン学習イベント等を通して、多くの方々にひとり親家庭の体験格差についてお伝えできました。

この助成は従来、指定寄付金や全国から寄せられた中古

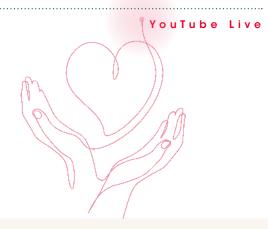
品の換金に加え、当連盟の歳入を財源としていましたが、おかげさまで3分の1以上にあたる金額がクラウドファンディングで集まるようになりました。2022年度に日本連盟100周年記念募金事業として行った「子ども未来基金」もあり、2024年度には助成の全額をご寄付によってまかなうことができました。

助成の受給者は年々増加しています。ボーイスカウトを続けさせたいというひとり親の皆さま、そして楽しく充実した活動に参加している子どもたちのために、今後とも温かいご支援が必要です。

Crowdfunding

「社会的課題について学ぶシリーズ」

クラウドファンディングへの挑戦中、社会課題の各分野に取り組む方にゲストとしてお越しいただき You Tube ライブを開催しました。地域社会や関係団体と連携し、青少年の成長と共に社会課題の解決に向けた貢献を目指しています。今後もさまざまな課題に対応しながら、より良い社会の実現に向けて行動を続けていきます。



体験格差を考える

日時:2023年11月22日(水) 特別ゲスト: 今井悠介 さん 公益社団法人チャンス・フォー・チルドレン



体験格差の問題に焦点を当てました。今 井さんは被災などの 経験から、経済的に 困窮している家庭や 子ども時代に体験活



動が少ない状況について調査結果を共有しました。

子ども食堂の役割と地域の絆

日時:2023年12月4日(月) 特別ゲスト:三島理恵 さん 認定NPO法人全国子ども食堂支援センター・むすびえ



子ども食堂の重要性とその地域社会への貢献について学びました。子ども食堂は、食事が不安定な子どもたちだけでなく、多世代が集まる場として



地域の繋がりを支えています。企業や自治体の支援も増えており、全国で数千か所の子ども食堂が存在しています。

選択格差と若者支援の現状

日時: 2023年12月11日 (月) 特別ゲスト: 勝山恵一 さん 一般社団法人ハッシャダイソーシャル



選択格差が若者たちの将来に与える影響について取り上げました。勝山さんは自身の経験を通じて、社会的背景や環境が自分たちの選択肢を制限する



若者たちの支援に取り組んでいます。若者たちが自らの人 生を選択し、可能性を広げるための取り組みを紹介しました。

被災地支援の現状

日時:2024年1月31日(水) 特別ゲスト:吉澤武彦 さん 一般社団法人日本カーシェアリング協会



能登半島地震の被災 地支援に焦点を当て ました。カーシェアリ ングを通じた地域社 会の変化や課題につ いて、日本カーシェア



リング協会の吉澤武彦さんから詳細を伺いました。

社会で活躍する若手スカウトにインタビュー

スカウト活動を通して成長した若手スカウトが 社会でどのように活躍しているかインタビューしました!



Ke:



木村直登

- 東京連盟昭島第1団 ローバー隊長
- ・職業:ソニー株式会社
- 職種:マーケティング





安部 京

- 神奈川連盟 湘南地区 鎌倉第2団
- ローバー隊副長
- ・職業:株式会社モンベル

ローバー時代にどのような活動を行っていましたか?

地域と国をまたぎ、ダイナミックレンジの広い活動を経 験してきました。ボーイスカウトは全国に団という拠点が あり、基本的な活動単位は地域に根ざしています。私は地 元の仲間たちと共に富士登山遠征など野外活動に励むこと もあれば、一方で地域を超え大学生年代の全国組織にて 議長を務め、全国の仲間たちと組織の自治に取り組んだこ ともあります。はたまた国を超えて、世界スカウト会議と いう170以上の国からスカウト関係者が集う会議に参画し、 スカウト運動の未来を考える日々を過ごしたこともあります。 それらの経験で学んだことはリーダーシップ、ソーシャルス キルなど数知れず、私の人生を形作る貴重な時間となりま した。

社会の中でどのようにスカウト活動が生きていますか?

スカウト活動で学んだリーダーシップは、私が社会人と して働く上での強固なバックボーンとなっています。企業で 働いていると「自分ごとで取り組む」というような言葉を聞 く機会があります。私はマーケティング職に関わっています が、マーケターはリーダーシップを発揮し関係者を巻き込 み物事を前に進める推進力がなければ、ただのマーケット の傍観者になってしまいます。とはいえ、マーケターとして イニシアチブを発揮するのは決して簡単なことではなく、高 度なソフトスキルが求められるものです。自分で人生を切り 開く活動であるローバー活動には、今の私の社会人生活を 支えるソフトスキルに直結する学びがたくさんありました。

ローバー時代にどのような活動を行っていましたか?

海外スカウトとの国際交流、災害ボランティア、海岸清 掃の奉仕などの活動を行ってきました。特に思い出深いの は、大学2年時に実施した「スカウト特別海外派遣」です。 「アジア太平洋地域のスカウティングに学ぶ」をテーマにし た個人プロジェクトを約1ヶ月間中華圏3つの国と地域(台 湾・シンガポール・香港) にて実施し、学校および地域ベー スのスカウト活動の現状調査を行いました。その成果とし て、各地の活動事例を日本の活動に取り入れる提案がで きたこと、そして海外スカウト人脈ができたことで中国語 による橋渡し役を担うことができたことがあげられます。 霞会館様より50万円ご支援をいただけたことにより、活動 の企画から報告に至るまでスムーズに進められたことに大 変感謝しております。

社会の中でどのようにスカウト活動が生きていますか?

ボーイ隊(小6から中3)時に、年代縦割りの班活動の 中で、リーダーシップとフォロワーシップを学びました。ま た、プロジェクトを通じて事前準備、企画から実施段階ま でのあらゆる調整などを行うコミュニケーション力、行動 力、実行力を培えたことは社会人となった現在も仕事の場 面に生かすことができております。「モンベル・アウトドア・ チャレンジ」ではお客様をフィールドにお連れし、楽な山 登りの歩き方を伝授したり、ご当地の歴史紹介などをして おり、これまでのスカウト活動で自ら学んだことを社会の 中で大いに発揮できております。



Tsuchida





※所属の表明はステルスマーケティングを防止する目的であり、 所属企業の総意や見解を表明するものではありません。



土田純平

山形県連盟寒河江第1団

団委員

職業:日本マイクロソフト 株式会社

職種:クラウドソリュー

アーキテクト/ エバンジェリスト



池田美夏

大阪連盟東大阪第6団 | ローバースカウト

• 職業: 大手小売業勤務

ローバー時代にどのような活動を行っていましたか?

ローバースカウト時代には、地元である山形県でさまざ まな活動をしてきました。特に印象に残っているのは、県 代表として全国ローバースカウト会議に参加した経験です。 ここで、他県のスカウトたちと一緒に様々なワークショップ を行い、異なる視点からの問題解決に挑戦する機会を得 ました。また、ボーイスカウト日本連盟の委員として、日 本のスカウト運動の発展に寄与する機会をいただき、リー ダーシップや実行力を育むことができました。

非常にチャレンジングな環境で学校では学べないような ことを体験できるのはスカウト活動ならではの価値だと感 じています。

社会の中でどのようにスカウト活動が生きていますか?

現代社会は不確実性が増しており、正解のない課題に 対処する能力が求められます。そのような状況で、スカウ ト活動で培った「自分で考えて動く力」が役立っていると 感じます。私はIT技術の社会実装を職業としていますが、 日々変化する技術トレンドに対応するには、スカウト活動 で学んだ状況把握能力や判断力が非常に役立っています。 特に、新しい技術を日本のお客様に適用する際には、的 確な情報収集と分析が必要であり、スカウト時代に鍛えら れたこれらのスキルが活きています。また、グローバル企 業で働く上で、海外の同僚とのコミュニケーションもスカ ウト活動を通じて身につけたグローバリゼーションが大い に役立っています。

ローバー時代にどのような活動を行っていましたか?

県内イベントなどの奉仕活動、地区、県、近畿ブロック、 全国でのローバースカウト活動の運営など、幅広く活動を してきました。一例を挙げると、2022年にコロナ明け初と なる野営大会を立ち上げ、2023年度からは毎年の継続開 催を目標として同年代の仲間と共に運営を行っています。大 会中では過去の活動を振り返りつつ、今後社会人としての 活動を考える機会を取り入れたプログラムを提供しました。

現在は、近畿規模、全国規模、2つの規模のローバー スカウトを対象とした野営大会の運営に携わり、今までと は異なる規模、立場での運営に挑戦しています。

また、ボーイスカウト日本連盟の理事として、同年代の 意見を組織運営に反映できるよう努めています。

社会の中でどのようにスカウト活動が生きていますか?

特別なものは思い浮かばないのですが、スカウト活動を 通じて学んだことが生活に溶け込んでいるなと感じていま す。例えば、実家であまり家事をしていなかった私が、社 会人になって始めた一人暮らしで不自由なく生活ができて いるのは、スカウト活動を通して学んだ生活のスキルのお かげだと思います。

また、仕事を行う中で、目的目標を理解して、業務を行 うことができていると感じます。周囲の方から目的を意識 して業務を行うことができていると評価をいただいており、 社会人1年目から業務で活躍できているのは、スカウト活 動から得た学びを活かせているからだと思っております。



ボーイスカウト運動は

青少年たちが 主役です 2023年~2024年の 夏季に行われた事業の一部 ご紹介いたします。

夏季に行われた事業の一部を ご紹介いたします。



2023



最大のキャンプ大会 第25回世界スカウトジャンボリー

4年に一度行われるボーイスカウト運動最大のキャンプ 大会「世界スカウトジャンボリー」。2023年、韓国で開催 された大会にはおよそ150か国から43.000人が集まり、 日本からも1,500人以上が参加しました。

世界の仲間と交流することができるこの大会は世界的 な運動であるボーイスカウトの特徴の1つです。



2027年にはポー ランドでの開催が 予定されています。



防災・減災でスカウトができること ローバースカウト集合訓練

ボーイスカウト日本連盟が創立した1922年の翌年、「関 東大震災」が発生しました。そのときボーイスカウトは配 給支援や学校運営の支援等を行いました。自分の命と生 活を守るだけでなく、「人の役に立つ」ことを実証し、以降 100年続く運動のなかでは災害支援活動を行ってきました。 2023年の夏はローバースカウトを対象に避難所運営の実



践や災害時に役に 立つスキルの習得 などを行いました。

2024



共生社会の実現を目指す 第13回日本アグーナリー

障がいの有無に関わらず誰もが参加できるキャンプ大会 を4年周期で開催しています。8月8日から12日の期間にお いて、福島県・国立磐梯青少年交流の家で開催した本事 業には、海外含めて約1.000人が集いました。キャンプ生 活などを通して仲間と交流し、また、さまざまなプログラ ムを体験することで、挑戦する気持ちや達成する喜びを得 ることができました。

参加者・スタッフは大会テーマである「We Can!」を 合言葉に協力しながら大会を終え、次回大会での再会を 誓いました。





ユース年代による国際キャンプ大会 日本ローバームート2024

9月3日から8日、ボーイスカウト日本連盟が那須塩原に 有する野営場で日本ローバームート2024を開催しました。 ローバースカウト年代が集まるキャンプ大会は「MOOT (ムート)」と称して世界各国で開催されています。MOOT を日本で開催するのは実に19年ぶりであり、国内およびア ジア太平洋地域から300人以上が集まりました。









19th NIPPON SCOUT JAMBOREE

2026

第19回

日本スカウトジャンボリー について

19NSJ運営委員長(日本連盟常務理事)

和田 剛和

Takekazu Wada

日本スカウトジャンボリーは、全国のスカウトと指導者、そして海外からの参加者が集まり、班制教育や野外活動を通じてスカウト教育の基本を重視した質の高い活動を行うイベントです。これは、スカウトが「ちかい」と「おきて」を実践し、新たな発見や感動を体験し、友情の絆を深める機会となります。また、国際的な交流を通じて国際感覚を養い、世界平和について考える契機を提供する、日本国内におけるスカウト運動最大の教育イベントとして、4年に一度開催されています。

第19回日本スカウトジャンボリーは、2026年8月4日か ら10日までの6泊7日間、広島県神石郡神石高原で開催さ れます。豊かな自然環境を活かし、地域に密着したプログ ラム、そして広島として世界平和に向けた新たな取り組み を考えるプログラムが展開されます。また、環境への配慮 を重視し、廃棄物の削減や資源の再利用に努め、参加者 とスタッフが協力しながら快適なキャンプ生活を送ること を目指します。大会には、全国から約8,000人のスカウト と指導者が参加し、各種プログラムが実施されます。プロ グラムの企画にあたっては、スカウトの成長を助けることを 目指し、進級課目と関連させた活動や野外活動、体験活 動など多様なプログラムが提供されます。さらに、地域の 歴史や文化、自然を体験し学ぶ機会も設けられています。 また、開会式、ジャンボリー大集会、閉会式といった全体 行事では、参加者全員が一堂に会し、地域の伝統芸能や 多様な演出を楽しむことができます。また、信仰奨励や奉 仕プログラムを通じて、スカウトとしての「ちかい」と「おきて」の実践を促し、平和や恵みについて考える機会が提供されます。

本大会は、ボーイスカウト日本連盟が2023年から10年間で取り組む第3期中長期計画の具体的な施策を実現し、2032ビジョンの達成を目指します。このビジョンは、様々な団体と連携し地域に根ざしたスカウティングを推進し、全ての人に開かれたスカウティング、青少年の成長と社会課題の解決に貢献するスカウティング、そして強固な財政基盤を持ち効率的な事業執行を行う「ボーイスカウト日本連盟」を目指しています。また、過去の大会経験を活かしつつ、新たな人材を登用し、運営することで、今後のスカウティングを支える成人を増やすことを目指しています。本大会が日本国内外の社会に広くアピールされ、スカウト運動のさらなる発展、そしてボーイスカウト日本連盟の目的である社会に奉仕できる青少年を育成する重要な機会となることを目指します。



広島県・神石高原ティアガルテン



大会の 概要 会 場:広島県・神石郡神石高原町

会 期:2026年(令和8年)8月4日(火)~10日(月)

6泊7日間のキャンプ生活。

参加者:ボーイスカウト(小学6年生から中学生年代) およびベンチャースカウト(高校生年代)を 中心とした参加隊により、8,000人規模で開 催し、青年・成人の大会運営スタッフにより

運営します。

第17回日本スカウトジャンボリー開会式



私たちの運動は

皆さまに 支えられています



多くの企業・団体の皆さまからご支援いただき、ボーイスカウトの青少年に対して教育 機会をご提供いただいております。また、環境や防災、難民問題への啓発活動として、 ボーイスカウトと企業が一緒になって地域社会に貢献する事業も展開しております。 ここでは一部をご紹介させていただきます。



セブン・イレブン 「スカウトの日」

全国に仲間がいるボーイスカウトとして、年に一度はみ んなで一斉に社会に良いことをしよう!と呼びかけ「スカウ トの日」を40年近く継続して実施しています。

これには長年、一般財団法人セブン-イレブン記念財団 にご支援をいただいております。



小学生年代向けの 教育プログラムを共同開発

ボーイスカウト運動の特徴として、「バッジプログラム」 というものがあります。子どもたちの興味関心にあわせてさ まざまな内容の課目があり、全ての年代をあわせて日本で はおよそ120もの種類があります。

この教育的なプログラムを企業や団体の皆さまと一緒に 開発させていただいております。

●これまで共同開発させていただいた、

企業・団体の皆さま

ビクトリノックス・ジャパン株式会社 リオティント・ジャパン株式会社 FSCジャパン (日本森林管理協議会) 株式会社ミツウロコヴェッセル 株式会社ヤクルト本社 株式会社セールスフォース・ジャパン 株式会社モンベル パロアルトネットワークス株式会社 東日本高速道路株式会社(NEXCO東日本)

岩谷産業株式会社

箱根美術館



「全国防災キャラバン」

地域の防災力向上に寄与するため、「防災」をテーマに した「全国防災キャラバン」を全国のイオンモール等で開 催しています。これは2016年からイオングループと共催し ている事業であり毎年全国60会場ほどで子どもたちが楽 しみながら防災について学ぶことができるプログラムを提 供しています。

開催にあたってはイオングループ各社から多大なるご理 解とご協力をいただいております。



(順不同)

大規模キャンプ大会への ご協力

ボーイスカウトでは、全国から子どもたちが集い、およそ 一週間のキャンプ生活を通しながらさまざまなワークショッ プに参加するキャンプ大会を定期的に開催しています。

大会の開催にあたっては、資金的な支援や物品の提供 および貸与、そしてワークショップの提供などを通して企業 や団体の皆さまからサポートをいただいております。

●直近の大会における主な支援企業・団体の皆さま

キヤノン株式会社 株式会社ゴーゴーカレーグループ パロアルトネットワークス株式会社 株式会社明治 株式会社ヤクルト本社 アイコム株式会社 赤城乳業株式会社 ソニー・太陽株式会社 ビクトリノックス・ジャパン株式会社





企業・団体の皆さまに限らず、広く個人の方からもご支援をいただいており、 私たちが100年以上も青少年の健全育成を目的に活動することができて いる支えとなっております。

公益財団法人である当連盟へのご寄付は税制上の優遇を受けることが可 能です。また、寄付以外のご支援も承っております。



ご寄付によって当連盟をご支援いた だいている皆さまを「維持会員」とお 呼びしております。銀行口座等へのお 振り込みまたはクレジットカードによ る月々の自動引き落としによりご支援 いただくことが可能です。



https://www.scout.or.jp/ support







ボーイスカウト日本連盟では、使用 済の切手や書き損じハガキ、中古本 や玩具等を回収しています。それらを 換金し、ひとり親家庭等への支援に あてております。 なお、ブックオフコー ポレーションと提携しておりますので、 ブックオフの買い取りの仕組みを用 いて簡単に不用品をお届けいただくこ とができるようになっております。

> https://www.scout.or.jp/ support/donation





遺言として、財産の一部または全部 の受取人を「公益財団法人ボーイス カウト日本連盟」に指定していただ くことが可能です。まずはお近くの 信託銀行や弁護士の方にご相談くだ さい。



https://www.scout.or.jp/ support/legacy



公益財団法人として信頼される ガバナンス体制に基づく健全な財務運営

当連盟の2023年度の総収支額は13.7億円となっています。

収入の基本的部分は加盟員登録料・会費で4.6億円です。その他主なものは、共済保険料1.4億円、不動産賃貸・ブランド使用料など各種事業収入が1.5億円、寄付金・企業協賛金0.7億円となっています。

2023年度は韓国での第25回世界スカウトジャンボリー (25WSJ) に1,563名が参加し、その参加費収入が4.8億円あり、受取負担金の9割を占めています。

一方の支出については、公益事業全体として8.8億円を使用しております。主な内訳としては教育関係事業に0.9億円、共済事業に1.4億円、普及広報事業に0.8億円、指導者養成事業に0.6億円を使用しています。また、前述の25WSJ特別経費支出は4.6億円で、国際関連事業の9割を占めています。

事務局人件費や租税・不動産関連経費として3.3億円、野営場改修や情報システム 更新など特定資産に1.5億円を引き当て、将来必要な備えもしながら、収支相償の健全 な財政運営に努めています。

昨今、加盟員からの登録料収入は減少傾向にあり厳しい財政状況が続きますが、「より良き社会をつくる青少年のための教育」を真摯に展開し、スカウト運動に賛同いただける企業や個人へ広く呼びかけながら、安定した財政を目指してまいります。









SNSへのフォローを お願いします!



ボーイスカウト日本連盟ではホームページやSNSを通してさまざまな情報を発信しております。フォローやチャンネル登録をしていただきぜひご覧ください。

ホームページ

https://www.scout.or.jp/





Facebook

公益財団法人ボーイスカウト 日本連盟



Instagram

scout_association_of_ japan



X (旧Twitter)

公益財団法人 ボーイスカウト日本連盟 @ScoutingJapan



YouTube

ボーイスカウト日本連盟/ Scout Association of Japan @ScoutingJapan

アンケートへのご協力をお願いいたします。

ボーイスカウト日本連盟では、これからも 年に一度「アニュアルレポート」を作成し、本運動へ のご理解・ご支援をいただいている皆さまにお届けして 参ります。

よりよい誌面の作成に向けてアンケートにご協力いた だけますと幸いです。

ご回答いただいた方には抽選でボーイスカウトオリジナルグッズをプレゼントいたします。

アンケート回答期限:2024年12月~2025年3月末

https://forms.gle/wQNgfpRWhfAGy25X8 >







発行 公益財団法人ボーイスカウト日本連盟

〒167-0022 東京都杉並区下井草4-4-3 電話:03-6913-6262 FAX:03-6913-6263

E-mail:info@scout.or.jp https://www.scout.or.jp/



